

平成30～32年度
地域内フィーダー系統確保維持計画

広島県三次市

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)

三次市では、鉄道、高速バス、路線バス、三次市民バス、デマンドバス、三次市民タクシー、交通空白地有償運送といった多様な公共交通機関が運行されていますが、これらの利用者は自家用自動車の普及や少子高齢化の進行に伴い、年々減少しています。

このため、平成17年3月に「三次市生活交通体系実施計画」、平成19年3月に「三次市生活交通中期プラン」、平成22年3月に「三次市地域公共交通総合連携計画」を策定し、利用者の利便性の向上と効率的な運行の実現等をめざして施策を推進してきました。

また、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」（平成19年法律第59号）に基づき、住民・利用者の代表、交通事業者、商工業や福祉等の関係団体、学識経験者、行政機関の担当者等が参加する「三次市地域公共交通会議」を設置し、施策の検討や関係機関の連携を進めてきました。

しかしながら三次市の公共交通をとりまく環境は、近年、厳しさを増しており、公共交通の利用者の減少が続くなど、そのあり方についても見直しが必要になりました。

平成28年3月に「三次市地域公共交通網形成計画」を策定し、基本方針である“みんなで守りみんなで育てる地域の公共交通”を目指し、可能な限り市民ニーズに沿った、持続可能な公共交通網の構築を進めています。

市街地循環バス「くるるん」については、平成23年4月1日から、当時利用が低迷していた市街地コミュニティバス「みよしウェーブ号」の見直しにより運行しています。実施にあたっては、地域住民、商工会議所、運行事業者及び学識経験者がメンバーとなる市街地循環バス活性化検討会議（三次市地域公共交通会議分科会）を設置し、協議・検討を重ね、半年間の実証運行を行いました。

導入以降、利用者は減少傾向にあり、平成26年度には当初より1便当たり1人弱減少しました。平成27年4月1日からは、市民ホールを経由することで、更なる利用向上を図っており、徐々にではありますが利用者の増加がみられ、市民に定着しつつあると言えます。

この路線は、三次駅前を経由しており、市周辺部からのJR線や路線バスを結節し、商業施設や医療機関が多く集まる市街地での買物・通院をサポートする機能を持ち合わせており、この路線を確保・維持することは三次市の公共交通体系を機能させる上で重要な位置づけをなしています。

さらに、本市の中心市街地には、高度な医療サービスを提供する「市立三次中央病院」や、大規模商業施設などが位置しており、周辺7町の高齢者の中心市街地への通院・買物需要は高くなっています。

公共交通空白地有償運送「さくぎニコニコ便」は、旧町村単位で運行している三次市民バスではカバーできない、JRや路線バスとの接続を可能にするため、地域資源であるふるさとのまちづくりを掲げたNPO自らが新しい地域の移動サービスを提供できる仕組みとして構築し、平成23年10月から運行を開始しています。

三次市の北部地域である作木町では、町内及び隣接する布野町にもタクシーの営業所がなく利用する場合も、非常に時間がかかる状況にあり、また、距離も長く金銭的な負担が大きいことから、容易にタクシーを利用できない状況になっているため、地域間のサービスの不均衡解消をめざして運行しています。しかしながら利用者数は減少傾向にあるため、広く利用促進を図るべく、老人施設や近隣の市町への乗り入れ等で連携を図っていく必要があります。

赤名線については、平成25年3月30日の松江道開通により、広島松江間、広島出雲間の高速バスが

松江道に乗り換えとなり、島根県飯南町、三次市布野町域においては三次市への移動手段が減少しました。そこで赤名線をこれまで運休していた土日にも運行するとともに、起終点を赤名から花栗口（頓原）まで延長、平成27年5月18日からは道の駅ゆめランド布野を経由するなど、乗継等も意識した変更を行ってきました。また、平成28年10月20日からは、より利用実態に応じた運行を行うために、花栗口赤名間を別系統にしています。今後も、利用者ニーズに対応し、利用促進を図っています。

下高野線は、平成25年3月30日に開通した松江道への乗り換えにより、庄原市高野町や口和町域から三次市街地への速達性が格段に向上することとなりました。沿線住民の利便性向上のため、平成26年4月からは4往復のうち3往復を松江道の口和インター、君田町、三次町を経由するルート、1往復については高野町から口和インター間を県道、口和インターから松江道経由するルートに経路を変更して運行しています。また日・祝日には、君田町、三次町を経由するルートについて2往復することで、利便性の確保をしています。

これら2つの路線は、島根県飯南町及び庄原市から本市中心市街地へ乗り入れる路線であり、広域圏から市立三次中央病院への通院や買物などの移動手段として必要不可欠な路線となります。また、三次駅での乗り継ぎにより、さらに広域的な移動が可能となるものです。

2. 地域公共交通確保維持事業に係る定量的な目標・効果

市街地循環バス「くるるん」については、引き続き、運行事業者、沿線地域の住民自治組織、商業関係者等と連携を密にし、1便（1循環）あたりの平均利用者数を増加させるよう取り組みます。周辺部からの地域間交通を利用し、さらにこの路線に乗り換え、市街地での通院や買物などに利用されるよう、この路線の役割を高めます。平成28年4月から平成29年3月の平均が7.3人であることから、平成30年度から平成32年度の目標を7.5人以上とします。

この運行により、中心市街地における買い物などの外出支援、また三次駅や医療機関、公共施設等への移動支援が図られるものです。

項目	目標の基礎となる数値	目標数値
1便（循環）あたりの平均利用者	7.3人（平成28年4月～平成29年3月）	7.5人以上

公共交通空白地有償運送「さくぎニコニコ便」については、定期的な利用者の減少や主な目的地である医療機関の営業形態の変更等により、利用者が低迷していましたが、平成28年4月～平成29年3月までの月平均利用者が37.2人と増加傾向にあります。今後も運行事業者や関係機関、行政などが連携し、新たな利用者の掘り起こしを行い、月平均利用者数の維持・増加をめざします。平成30年度から平成32年度の目標を38人以上とします。

この運行により、三次市中心部へ移動する際の接続向上が図られるとともに、外出機会の提供、医療機関等への移動支援が図られるものです。

項目	目標の基礎となる数値	目標数値
1月あたり利用者数	37.2人（平成28年4月～平成29年3月）	38人以上

赤名線、下高野線については、平成28年4月から平成29年3月における1便当たりの乗車人員を基礎とします。赤名線については当該期間中の1便当たりの乗車人員が4.5人であることから、平成30

年度から平成32年度の目標を1便あたり5.0人以上とします。赤名線は前年の目標値を下回っているため、飯南町とも連携し利用促進に努めます。また、下高野線については平成26年4月に系統の廃止と新設を行ったため、系統ごとに目標を設定します。まず君田町経由の系統①については平成30年度から平成32年度の目標を1便あたり4.0人以上とします。続いて、口和町竹地谷経由の系統②については平成30年度から平成32年度の目標を1便あたり3.5人以上とします。

これらの運行により、三次市中心部への移動が便利になり、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進ができるものです。

【赤名線】

項目	目標の基礎となる数値	目標数値
1便あたり利用者数	4.5人（平成28年4月～平成29年3月）	5.0人以上

【下高野線①】

項目	目標の基礎となる数値	目標数値
1便あたり利用者数	3.9人（平成28年4月～平成29年3月）	4.0人以上

【下高野線②】

項目	目標の基礎となる数値	目標数値
1便あたり利用者数	3.3人（平成28年4月～平成29年3月）	3.5人以上

3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

持続可能で地域の実情に適した地域内生活交通を運営するため、平成28年度に設置した「地域内生活交通検討会」において、利用実績に応じて利用者の意見の把握等を行い、利用促進策を検討する。

4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者

(表1) のとおり

- ・市街地循環バス「くるるん」は、利用が低迷していた市街地コミュニティバス「みよしウェーブ号」の再編のため、引き続き備北交通㈱により運行している。[運行日：1/1, 1/2を除く毎日]
- ・赤名線、下高野線については、以前より運行していた備北交通㈱により運行する。
 運行日：赤名線： 1/1, 1/2を除く毎日
 下高野線：【君田町経由】1/1, 1/2を除く毎日（但し月～土は3往復、日祝は2往復）
 ※12/30, 12/31, 1/3は休日ダイヤ
 【口和町竹地谷経由】月～金（祝日、12/30～1/2運休）
 ※1/3は休日ダイヤ
- ・公共交通空白地有償運送「さくぎニコニコ便」は、地域の事情に精通し、よりよいサービスが提供できる地元のNPO法人「元気むらさくぎ」により運行している。
 [運行日：上地区 月曜日 中地区 金曜日 下地区 水曜日（祝日、12/29～1/3, 8/14～16運休）]
 (公共交通空白地有償運送の運行時間)
 各地区の1回あたりのサービス提供時間
 上地区…1.5H 中地区…1.3H 下地区…2.0H
 (往路第1便：8時35分香淀駅経由、9時15分上布野バス停留所着)
 受付(オペレーター)8時～16時
 ※サービス提供トータル時間：8時00分から16時まで(8時間)

5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者

・市街地循環バス、赤名線、下高野線、公共交通空白地有償運送に係る費用は三次市が補助金として負担する。なお、市補助金は、総事業費から国の補助金を除いた額以下とする。

6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称	
(1) 三次町循環	… 備北交通(株)
(2) 南畑敷町循環	… 備北交通(株)
(3) 赤名線	… 備北交通(株)
(4) 下高野線①	… 備北交通(株)
(5) 下高野線②	… 備北交通(株)
(6) 作木町上地区	… 特定非営利活動法人元気むらさくぎ
(7) 作木町中地区	… 特定非営利活動法人元気むらさくぎ
(8) 作木町下地区	… 特定非営利活動法人元気むらさくぎ
7. 補助金の交付を受けようとする系統等に係る利用状況等の継続的な測定手法	
該当せず	
8. 別表1及び別表3の補助事業の基準二に基づき、協議会が平日1日当たりの運行回数が3回以上で足りると認めた系統の概要	
該当せず	
9. 別表1及び別表3の補助事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧	
該当せず	
10. 地域公共交通確保維持事業を行う地域の概要	
「地域公共交通確保維持事業費補助金交付要綱「表5」添付」	
11. 車両の取得に係る目的・必要性	
<p>・赤名線については、これまで1両で運行していたが、島根県飯南町の赤名から頓原まで路線を延長したため、2両での運行が必要となったため、平成25年度新たに高齢者等の利用に配慮した超低床車両を導入し、利便性の向上を図っている。</p> <p>※車両購入については、三次市地域公共交通会議から申請することについて、島根県飯南町地域公共交通会議と協議済み。</p>	
12. 車両の取得に係る定量的な目標・効果	
<p>1. 事業の目標 高齢化率の高い地域を運行するため、超低床車両を平成25年10月に導入した。</p> <p>2. 事業の効果 超低床車両を導入することにより、高齢者等を含め、利用者の移動の負担を軽減することで、利用促進につなげる。</p>	
13. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者、要する費用の負担者	
「地域公共交通確保維持事業費補助金交付要綱「表6」添付」	
14. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策）	
該当せず	

15. 協議会の開催状況と主な議論

平成20年9月30日に道路運送法の規定に基づき、「三次市地域公共交通会議」を設置、平成21年3月6日、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に沿い、法定協議会機能を付加した組織になりました。

交通会議設置後は、平成21年度以降、書面協議を含めて年間3～11回の会議、これまで45回を実施し、再編対象事業毎のワーキング会議等も適宜、実施しています。具体的な開催状況及び主な協議内容は下記のとおりです。

○ 三次市地域公共交通会議開催状況

- H27.06.29 平成28～30年度地域内フィーダー系統確保維持計画承認
- H27.07.10 幹事会において、三次市地域公共交通網形成計画策定支援業者選定
- H27.08.26 三次市地域公共交通網形成計画策定支援業者決定、計画策定に向けた調査方法等
- H27.10.30 三次市地域公共交通網形成計画に係るヒアリング調査の中間報告等
- H27.11.16 三次市の公共交通に係る現状分析、課題・今後の調査方針について等
- H27.12.09 三次市地域公共交通網形成計画に係るヒアリング調査結果中間報告①等
- H27.12.28 三次市地域公共交通網形成計画（骨子案）等
- H28.01.13 平成27年度地域内フィーダー系統確保維持改善事業の評価について等
- H28.02.03 三次市地域公共交通網形成計画（素案）等
- H28.02.17 三次市地域公共交通網形成計画に係るヒアリング調査結果中間報告②等
- H28.03.28 三次市地域公共交通網形成計画策定
- H28.04.25 三次市地域公共交通網形成計画実施スケジュール等について等
- H28.06.27 平成29～31年度地域内フィーダー系統確保維持計画承認
- H28.08.05 地域内生活交通の設置について等
- H28.10.03 平成29～31年度地域内フィーダー系統確保維持計画変更について承認
- H28.12.16 平成28年度地域内フィーダー系統確保維持改善事業の評価について等
- H29.08.29 平成30～32年度地域内フィーダー系統確保維持計画承認
(書面協議含む)



三次市地域公共交通会議

○ 市街地循環バス活性化検討会議開催状況

- H22.06.08 「導入計画（実証運行路線、スケジュール等）の協議・確認」
- H22.09.08 「路線愛称・車体デザイン、ルート修正の協議・確認」
- H23.01.26 「実証運行に係るアンケート・ヒアリング
再編効果調査結果の報告・協議」
「本格運行の決定」



市街地循環バス活性化検討会議

○ 作木町自家用有償旅客運送検討会議（ワーキング）開催状況

- H22. 07. 13 「NPO, 作木町自治連合会, 各地区連絡協議会との協議」
- H22. 09. 30 「ボランティア運転手候補者事業説明研修会 7名参加」
- H22. 10. 04 「NPO理事会事業説明会 理事長以下5名」
- H22. 10. 08 「過疎地有償運送先進地 倉吉市たかしろ地区視察」
- H22. 12. 06 「過疎地有償運送運転者認定講習受講 NPO10名」
- H23. 06. 08 「NPO理事長及び作木町自治連合会会長との最終調整（企画提案書案提示）」



ワーキング

○ 今後の三次市地域公共交通会議等の開催予定

- H30年度～32年度 年3～5回開催予定

16. 利用者等の意見の反映状況

市街地循環便「くるるん」については、平成27年4月1日より、市民ホールを経由するルートに変更を行っており、経路変更の効果を確認するため、平成27年9月26日～30日に利用者を対象としたアンケート調査を行いました。

利用者は70歳代の女性が最も多く、通院や買物での利用が多くを占めました。満足度は7割程度と高めであると言えますが、ルート変更前と比較すると低い結果になっています。可能な限り利用目的を反映したルート設定への調査や新ルートである市民ホールでのイベントに合わせた広報を行うなど、周知の徹底が必要であると考えます。

また、作木町で導入した公共交通空白地有償運送「さくぎニコニコ便」については、平成24年2月に利用登録者を対象としたアンケート調査および運行事業者へのヒアリング調査を行っています。この調査による満足度では、「満足」が57%、「不満」が14%となっています。「不満」の項目では、「予約方法」「運行時間」「運行曜日」などがあげられています。この調査結果を受け、最も要望の多かった予約受付時間の変更を行いました。また運行開始後利用者がなかった往路①便を廃止し、効率化を図るとともに運行主体の負担軽減を図っています。今後は、あらたな利用者の獲得策として、高齢者サロンや特別養護老人ホーム等との連携、近隣市町への経路拡大などがあげられています。

両事業とも、引き続き地域、運行事業者及び交通会議を含む関係団体が連携し、利用促進を推進することの確認がなされています。

（利用状況・評価の把握予定）

- 引き続き高齢者運転免許自主返納支援事業の利用者に対してアンケート調査を行い、当該路線等についての意見把握を行います。
- 平成28年度に設置した「地域内生活交通検討会」において、利用者の意見等の把握、現状分析を行い、地域性を反映した交通体系の構築を目指します。

17. 協議会メンバー構成

三次市地域公共交通会議委員名簿	
構成区分	委 員
(1) 三次市	三次市 副市長 三次市地域振興部 部 長
(2) 一般旅客自動車運送事業者	備北交通株式会社 営業部長 有限会社 君田交通 代表取締役 三次みどりタクシー株式会社 代表取締役
(3) 一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体	私鉄中国地方労働組合備北交通支部 書記長
(4) 住民又は利用者の代表	東河内町 布野町 三和町 三次商工会議所 総務課長 三次広域商工会 事務局長 三次市社会福祉協議会 総務課長
(5) 国土交通省中国運輸局広島運輸局支局長又はその指名する者	中国運輸局広島運輸支局 首席運輸企画専門官
(6) 広島県地域政策局長又はその指名する者	広島県地域政策局地域力創造課 課 長
(7) 道路管理者	三次市建設部 部 長
(8) 広島県警三次警察署長又はその指名する者	広島県三次警察署 交通課長
(9) 学識経験者その他の交通会議が必要と認める者	米子工業高等専門学校 准教授

向こう3年間メンバー等の変更予定なし。